



## 4代続く歯科医院を受け継ぎ、 口腔外科の専門を活かし、 地域医療に尽くす

静岡県牧之原市にある「榎田歯科医院」は4代にわたり、地域医療に貢献してきた。受け継いだ志と熱意を胸に、歯の寿命をのばす診療に取り組む院長に話を伺った。



榎田歯科医院 院長 榎田 洋平 先生

### 7年の月日をかけて 父から歯科医院を受け継ぐ

「榎田歯科医院」がある静岡県牧之原市は、御前崎灯台が立つ岬にも近い自然豊かでのどかな地域だ。

2022年、榎田洋平院長は、父の榎田中外先生から歯科医院を受け継いだ。就任と共に建物を移転新築。診療を続けながらの移転だったこともあり、新たな場所は敷地内で駐車場として使っていたスペースだ。

「院長に就任する7年前から榎田歯科医院に勤務を始めました。うちは曾祖父から続く歯科医院です。親から子へ歯科医院を継承する際、大先生に馴染んでいた患者さんやスタッフが離れてしまうという話をよく聞いていました。そこで、私は「改革はするが、革命は起こさない」と決め、時間をかけて、確実に前進させようと考えました」

親子継承をゆっくりと進めることは、榎田院長にとってもメリットがあった。これまでどのように診療を進めてきたのかを日々、間近に見ることで、父の豊富な経験を吸収し、自分のものにする時間が得られた。また、スタッフとも治療時やミーティング、日常会話を通して理解を深め、信頼関係を築くことができた。

「ありがたいことに、8年前の勤務開始時から今まで、スタッフは一人も減ることなく、活躍してくれています。なかには、子どもだった私を抱っこしてくれたベテランのスタッフもいます。長く働くスタッフは、過去と未来をつなぐ貴重な戦力です」

スタッフたちは、榎田院長の治療方針や新しい医療

機器にも的確に対応した。患者もほとんどが継続して通院した。年配の患者のなかには「この歯は、あなたのおじちゃんに治療してもらった」と話す人もいたという。榎田院長は経営を受け継いだだけでなく、治療を通して父や祖父たちとも深くつながることもあった。

### ナースステーションの 機能も備えた診療室

新しい榎田歯科医院は、グレーの外壁が印象的な平屋建てだ。受付と待合室は天井が高く、高窓からの光が柔らかく降り注ぐ、心地よい空間になっている。「旧クリニックのよい部分を新しい建物に受け継ぎたいと思っていました。患者さんから多かったのが、以前の建物で木の床材が印象的だったという声です。温かみを感じ、安心できたとおっしゃるんですね。そこで、待合室の壁や床面、診療室に入る廊下の床材に木を使い、旧クリニックの雰囲気を感じさせるようにしました」

診療室は、患者と医療スタッフの動線を分けた構造になっている。オベ室を兼ねた個室も1つあるが、日々、診療で使うユニットは半個室タイプ。患者は待合室から廊下を通して扉を開け、ユニットに座る。ユニットの背中側は、医療側のワークスペースに開かれている。「ワークスペースの設計で、第1に重視したのは、すべてのユニットを一目で把握できる構造にすることでした。経時的に変化する状況に気づきやすい環境にすれば、



広くすっきりとした受付



天井が高く木を多用した待合室